

東京都美術館開館100周年

「世界をひらく アートのとびら」

ーキャッチコピーおよびメッセージ発表のお知らせー



東京都美術館は、開館100周年を記念したキャッチコピー「世界をひらく アートのとびら」および、開館100周年メッセージを発表しました。

1926（大正15）年、日本初の公立美術館として誕生した当館は、芸術家の作品発表の場であるとともに、国内外の名品と出会い、アートを通して人々がつながる場として、100年にわたり活動を続けてきました。

開館100周年にあたり、当館は、創設に尽力した実業家・佐藤慶太郎の「人々がより良く生きることを実現する」という理念をあらためて受け継ぎ、「あらゆる人にとってのアートへの入口」となることを目指してまいります。

東京都美術館開館100周年記念を冠して開催される特別展の第一弾「スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき」展は、1月27日に開幕。2026（令和8）年度を通じて、展覧会、シンポジウムや各種イベントなど、さまざまな記念事業を展開してまいります。詳細は下記、特設サイトで随時お知らせしてまいります。どうぞご期待ください。

なお、開館100周年メッセージ全文は、次ページに掲載しています。

▶東京都美術館開館100周年記念特設サイト

<https://www.tobikan.jp/100th/>

<東京都美術館開館100周年メッセージ>

2026（令和8）年、東京都美術館は開館100周年を迎えます。当館の誕生には、九州の実業家・佐藤慶太郎（1868–1940）の多額の寄付がありました。石炭業で得た財を惜しみなく提供し、1926（大正15）年、わが国初の公立美術館が誕生したのです。

佐藤は美術館だけでなく、困窮者の救済や学校設立、食生活・農村の改善、女子教育の向上など、人々が「より良く生きる」ための活動に私財の多くを捧げました。彼が望んだのは、今日という「ウェルビーイング」の実現でした。その精神こそ、当館が受け継ぐべき使命の原点であると、私たちは考えています。

2012（平成24）年のリニューアルに際し、私たちは「アートへの入口」となることを使命として掲げました。新たな価値観に触れ、自己と向き合い、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築く。そして「生きる糧としてのアート」と出会う場となり、「心のゆたかさの拠り所」をめざす、というものです。

それから10余年、人間の表現の多様性に目を向けつつ、人と作品、人と人をつなぎ、創造的な時間が育まれる場となるよう、独自のテーマによる企画展やアート・コミュニケーション事業を進めてきました。しかし、その歩みはまだ道半ばにあると感じています。

21世紀の社会は100年前とは大きく姿を変え、テクノロジーは想像を超える発展を遂げました。それでも世界は多くの問題を抱え、人々の分断も後を絶ちません。物質的な豊かさだけでは幸福は保証されず、生きるうえでの確かな支えが問われています。

私たちは、アートこそが「より良く生きる」ための確かな支えになると信じています。人間への信頼を育み、希望を灯し、困難な時代にも世界の可能性を示してくれる力があるからです。アートは、これからの社会にとってますます不可欠な存在となるでしょう。

佐藤慶太郎の「願い」を継承し、あらゆる人にとっての「アートへの入口」となり、「生きる糧としてのアート」の魅力を実感いただける美術館を目指して、私たちはこれからも歩みを続けてまいります。

東京都美術館

■お問い合わせ

東京都美術館 広報担当

TEL : 03-3823-6921 / Mail press@tobikan.jp / WEB : <https://www.tobikan.jp>

〒110-0007 台東区上野公園8-36 ※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。

◎広報用画像申請用URL <https://www.tobikan.jp/plate/22>

注意事項：本事業をご紹介いただける場合のみお申し込みいただけます。

校正ゲラ等の確認が必要です。上記宛先まで必ず掲載前にお送りください。